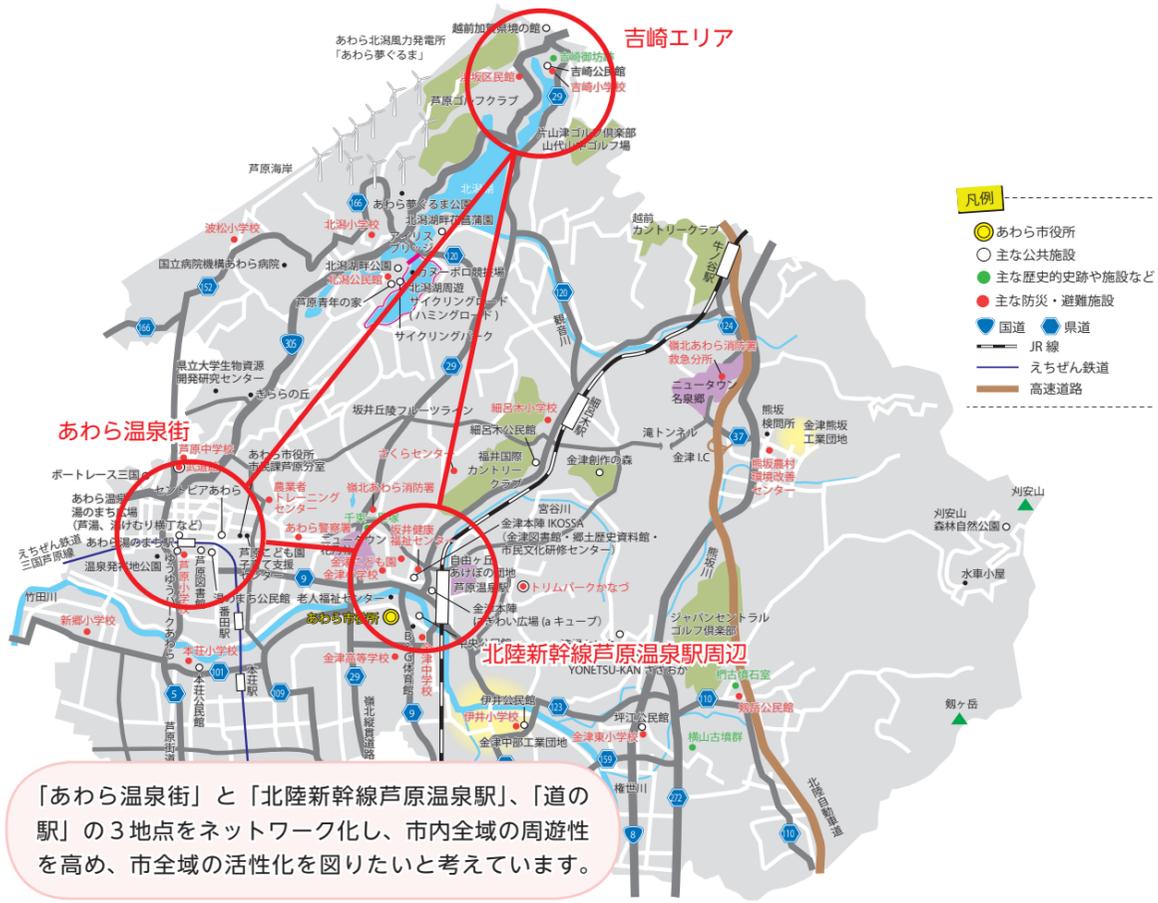


あわら北部エリアの

活性化を目指して



「あわら温泉街」と「北陸新幹線芦原温泉駅」、「道の駅」の3地点をネットワーク化し、市内全域の周遊性を高め、市全域の活性化を図りたいと考えています。

吉崎御坊

開山550年（吉崎）

浄土真宗中興の祖といわれる蓮如が、1471年に開山した吉崎御坊。来年、開山550年の節目の年を迎えます。

そのお膝元の吉崎地区では、地域活性化に取り組もうと、地域住民が中心となって令和元年春に一般社団法人「蓮如の里吉崎」を設立しました。吉崎の御山や寺院、博物館めぐりのほか、北潟湖の水上散策、報恩講料理などを組み合わせたまち歩きイベントを開催しています。

また、市では、令和5年春の開業を目指して道の駅整備の検討に着手するなど、さらなる地域活性化に向けた取り組みを行っています。



▲昨年開催された蓮如さんと吉崎めぐり
▲毎年開催されている蓮如忌

吉崎経済会議

地域経済の活性化や観光振興を目的として、10月24日（土）に伊藤忠商事株式会社や日本生命保険相互会社、株式会社JT Bのトップクラスの経営者を招き、吉崎経済会議を開催しました。



道の駅基本計画 策定委員会

道の駅「蓮如の里あわら」の整備に向けて道の駅基本計画策定委員会を開催しました。10月12日（月）に、第1回の策定委員会を開催し、本年度中の基本計画策定に向けて検討を進めています。



従来の休憩が利用目的となる道の駅ではなく、道の駅自体が目的地となり地域資源を楽しむことができるなど、個性的で魅力的な道の駅を目指しています。

地元の食材を使い

魅力を発信（波松）

波松地区は、農作物が豊富にとれるほか、波松海岸ではキス釣りやサーフィンが楽しめるなど自然豊かな地区です。

その地域資源を地域活性化に生かそうと、地区の有志らにより一般社団法人「なみまち倶楽部」が設立されました。さらに運営会社を立ち上げ、休校を活用した「なみまちCAFÉ」を令和元年7月にオープン。地域の住民がスタッフとして働き、地元で取れたナシやサツマイモなどの食材を使い、ランチやスイーツを提供しています。

今後の展開として、農山漁村地域に滞在しながら土地の魅力を楽しむ「農泊」事業に取り組み、波松ならではの体験を実施する予定です。



▲昨年オープンしたなみまちCAFÉで、ランチを楽しむ人たち



▶昨年開催された波清流木きらめきフェスタで地元で取れたサツマイモを販売

北潟湖の自然を

生かした取り組み（北潟）

北潟地区では、県内で3番目に大きい湖である北潟湖を中心に、漁業や農業、地元住民による環境教育が行われています。また、2018年には、福井国体のカヌースプリント競技会場にもなりました。

北潟湖と地域の自然環境について、再生や保全、活用に取り組みため「北潟湖自然再生協議会」が設立され、地域の自然環境や具体的な保全方法、地域資源の活用などの活動をしています。今後も、自然を守るため水質検査や特定外来生物の駆除、地元小学生を対象に観察会を行っています。

また、北潟湖周遊サイクリングロード建設促進期成同盟会では、北潟湖サイクリングロード未整備部分の整備再開に向けて要望活動を行っています。

▲エコ・グリーンツーリズムでカヌーに乗る参加者たち



▶赤尾湿地で、地元の小学生に貴重な自然の様子を伝えるガイドの河田勝治さん（一番右）

提供：あわらの自然を愛する会

歴史ある遺産を

後世に伝える（細呂木）

細呂木地区は、山林や田畑、果樹園などの自然資源、たたら製鉄や神宮寺城跡、川口城跡、細呂木関所跡などの歴史資源が豊富にあります。その魅力を広く発信するため、細呂木地区創成会が設立されました。

さらに、たたら製鉄については、地元有志からなる「たたら製鉄遺跡保存会」を発足し、令和元年10月にたたら製鉄遺跡を整備後、地元の小学生を招待し、鉄の生成方法について学んでもらおうと体験学習を実施しています。

今後の取り組みとして、隣接する吉崎や北潟と連携し観光ガイドを強化するほか、開催イベントやギャラリー情報発信などを行う予定です。

▲昨年完成したミニパークで、たたら製鉄方法を学ぶ地元の小学生たち



▶神宮寺城跡で、元福井県埋蔵文化財調査センター所長の南洋一郎先生から話を聞く参加者たち